

横浜ピアスタッフ協会事業報告書

2018年度

目次

はじめに 設立の目的、経過、この一年間の重点活動目標、その評価等

横浜ピアスタッフ協会
副会長 瀧沢賢広

(1) 活動報告

1) 事務局会議

2) 定例会

3) 第二回神奈川ピアまつり

4) YPS ピアマスター ピアスタッフ・ピアサポーター養成講座

5) 関係団体との連携事業

リカバリーパレード『回復の祭典』in 横浜、実行委員会への参加

6) その他普及啓発事業

市精連との共催研修

インターネット教育プログラム作成研究への協力

統合失調症薬物治療ガイドライン簡易版作成委員会への参加

出版プロジェクト

9) 結び 横浜ピアスタッフ協会 会長 住友健治

(2) 参考資料

1) 横浜ピアスタッフ協会憲章

2) 役員名簿

3) 新聞記事等

横浜ピアスタッフ協会事務局
シャロームの家
〒235-0023
横浜市磯子区森 3-7-23
電話 & FAX 045-752-5958

はじめに

精神保健福祉分野において「ピアスタッフ」という言葉は年々存在感を増しているが、その期待度に反して普及は十分に進んでいないというのが現状である。横浜ピアスタッフ協会（YPS）は、係る現状の元、横浜がピアスタッフの生まれやすい街になることを目指し平成 27 年 11 月に設立された。

YPS は参加自由の月二回（年度途中より月一回）の事務局会議にて活動内容を審議・決定し、2 か月に一回行われる定例会を主軸として活動を続けている。定例会の内容としては講師を呼んでの座談会、テーマを複数設定してのワールドカフェ、またレクリエーションに近いもの等バラエティに富んだ活動をしている。

また、定例会とは別に「神奈川ピアまつり」に代表される各種イベントの企画運営、ピアスタッフ・ピアサポーター養成講座である「YPS ピアマスター」の運営、精神科病院等での普及啓発活動等にも取り組んでいる。

外部の団体が企画運営しているイベント等にも実行委員の派遣、当日の参加等で協力をしている。

これら活動の詳細については後述を参照されたい。

今後の YPS としては、活動のますますの活発化を目指し会員の増加を図りつつ、会員を飽きさせないイベントを今後とも数多く企画運営し、当事者・医療福祉関係者・その他有志の力を結集することによってピアの土壌を強固なものにし、前述の横浜をピアスタッフの生まれやすい街にすることを目指していくものである。

横浜ピアスタッフ協会（YPS） 副会長 瀧沢賢広

事務局会議実施報告

平成 30 年 5 月 11 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：38 名
決議内容： 第二回神奈川ピアまつりの詳細について 他

平成 30 年 7 月 6 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：30 名
決議内容： 8 月の定例会の内容について 他

平成 30 年 9 月 7 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：23 名
決議内容： 10 月の定例会の内容について 他

平成 30 年 10 月 2 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：22 名
決議内容： YPS ピアマスター養成講座、12 月の定例会について 他

平成 30 年 11 月 2 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：20 名
決議内容： 第三回神奈川ピアまつりについて 他

平成 31 年 1 月 11 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：19 名
決議内容： 2・4 月の定例会について、第三回神奈川ピアまつりについて 他

平成 31 年 2 月 1 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：26 名
決議内容： 4 月の定例会について、第三回神奈川ピアまつりについて 他

平成 31 年 3 月 1 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：21 名
決議内容： ふくしまピアのつどいについて、第三回神奈川ピアまつりについて 他

協会の運営について話し合う場として、事務局会議を 2 か月に 1 度開催している。

※2019 年より毎月開催 主に第一金曜日

会場は、事務局機能を担うシャロームの家。各種各方面の活動内容、進捗状況を確認し、これからの活動について意見を交わし決議する場である。

リカバリーパレード等、外部の大規模なイベント運営に関わる際の話合いも主にここで行われた。

定例会実施報告

平成 30 年 4 月 6 日（金） 18:30～20:30 会場：ウィリング横浜 参加者：30 名
「今夜はなんでもワールドカフェ」

平成 30 年 6 月 8 日（土） 18:30～20:30 会場：横浜市開港記念会館 参加者：277 名
「第二回神奈川ピアまつり！」

平成 30 年 8 月 3 日（金） 18:30～20:30 会場：横浜市社会福祉センター 参加者：46 名
「バリバラを YPS 流にパロディーも含めて振り返る」

平成 30 年 10 月 5 日（金） 18:30～20:30 会場：ウィリング横浜
参加者：37 名
「当事者が語る精神障がいとリカバリー」出版記念の集い

平成 30 年 12 月 14 日（金） 18:30～20:30 会場：ウィリング横浜
参加者：34 名
「クリスマスイベント！みんなで双極性障がいを語ろう！リカバリーツリーを作ろう！」

平成 31 年 2 月 8 日（金） 18:30～20:30 会場：ウィリング横浜 参加者：60 名
「今夜は恋愛 3」

YPS では、2 か月に一度、定例会を開催している。

会員の顔合わせの場として、内容は勉強会からグループミーティング、レクリエーションに近いものまで幅広く、その時にタイムリーなものをテーマとしてとりあげている。

YPS 活動の入り口として、活動に関心を持った人にまず参加してもらう会と位置づけし、オープンで打ち解けやすい雰囲気で行っており、好評を博している。

第二回神奈川ピア祭り

2018年6月8日（金）18：30～20：30

横浜市開港記念会館講堂にて、開催。

参加者約 280 名

ピアまつり青年隊によるパフォーマンスで華々しく幕開け。

メインプログラムは、以下の二部構成

- ① ピアにかける熱い思いリレートーク
- ② ピアにかける熱い思いシンポジウム

① のリレートークでは、当事者、学生、ご家族、支援者、メディア関係者、研究者、それぞれの立場から、33組に、リレートーク形式でピアにかける熱い思いを語って頂いた。

② のシンポジウムでは、尾山篤史氏、関茂樹氏、割田大悟氏をシンポジストとして迎え、当事者活動、ピアサポートへの思いを語って頂いた。

祭りの結びでは、「ピアまつり青年隊とみんなでなんかやろう！」と題し、ステージに多くの参加者が上がり、おみこしを高らかに掲げ盛り上がった。この様子は、新聞でも報道された。

「お祭り」「全員参加」「ためになる」をメインテーマに、楽しい雰囲気を参加者全員と共有し、ピアに対しての理解をさらに深めることにつとめた。

YPS ピアマスター開催

YPS がピアスタッフに関する活動を広く手掛けていく中で、YPS 自身の手によってピアスタッフを養成・輩出すべきではとの機運が高まってきた。その高まりを受けてピアスタッフ養成講座「ピアマスター」が企画・運営された。

ピアマスターは実習を中心とするプログラムとして実施され、作業所・生活支援センター・グループホームなど計 18 箇所の福祉施設から実習受け入れ先としての協力を受け、受講生達が実習に励んだ。

2018 年 9 月 8 日から 2019 年 2 月 9 日にかけての全 6 回の座学で受講者は実習の心構え・実習先の選定・実習振り返りを行い、20 名が卒業した。初年度からグループホームに非常勤職員一名が採用されるという実績を上げた。

リカバリーパレードへの参加

当事者が自らの回復を祝い、回復の喜びを伝える祭典「リカバリーパレード」は全国で行われている。2018年には横浜で3回目の「リカバリーパレード」が行われた。

YPSからも会員が「横浜リカバリーパレード」の実行委員会に参加し、月一回程度のミーティングを中心に準備作業を進めていった。

2018年9月16日、約200名の参加者を集めて「横浜リカバリーパレード」は実施された。象の鼻パークにてエイサー（琉球太鼓）パフォーマンス、スピーチ等のアトラクションを行った後、参加者は隊列を組んで象の鼻パークを出発した。隊列は合唱やシュプレヒコールを行いながら南東方向に進み、山下公園石のステージまでの行程を40分ほどかけて行進した。

その他普及啓発事業

横浜市精神障害者地域生活支援連合会（市精連）との共催研修

平成 30 年 7 月 12 日 『入院体験について語ろう』

於：神奈川県地域労働文化会館 参加者数：42 名

「精神障害者の家庭内暴力解消に向けたインターネット学習プログラムの開発・障害者発のユーモア交えた動画」

（三菱財団助成研究）への協力

研究代表者：大阪大学 蔭山正子准教授

共同研究者およびインタビュー調査協力者として、YPS から当事者が参加

その他普及啓発事業

『統合失調症薬物治療ガイドー患者さん・ご家族・支援者のためにー』作成メンバーへの参加

統合失調症の薬物治療に科学的な根拠にもとづく一定の指針を示し、実際の診療の場面で判断材料の一つとして利用されることを目的として作成された「統合失調症薬物治療ガイドライン」。

それを基本的な内容はそのままに、当事者・家族・支援者向けによりわかりやすい表現に刷新した簡易版の作成に、YPS から統合失調症の当事者 5 名が参加した。

2018 年 2 月 27 日よりインターネット上で公開されていた内容は、書籍版として株式会社じほうより 2018 年 8 月 30 日に出版された。

今後も、当事者、ご家族へのさらなるエンパワメントに資するべく、継続してガイドライン作成メンバーに参加している。

YPS 出版プロジェクト

2016 年度からスタートした、出版プロジェクト。

大阪大学准教授の蔭山正子氏による『精神障がい者の家族への暴力という SOS』の続編として始まった企画は、延 15 名の YPS メンバーが執筆に参加し、1 月に一回の編集会議を重ねてきた。2018 年度に入ってから 6 月中の出版をめざし校正作業を進め、2018 年 5 月に、『当事者が語る精神障がいトリカバリー』のタイトルで明石書店から出版された。

11 月には重版も決定し、現在、1900 部を発行している。

YPS 横浜ピアスタッフ協会が目指す当事者発信を、一冊の本という形で、多くの人に手に取ってもらえる機会となった。

その他普及啓発事業

「愛の本（仮）」制作

現在、大阪大学大学院、保健学博士の蔭山正子先生と YPS、めんちゃれ、ポルケ、ハビカの 4 団体で精神障害者の恋愛、結婚、出産、育児、性についての本、「愛の本（仮）」を製作している。

以前、YPS との共著「当事者が語る精神障がいとリカバリー」と同様に体験談がベースとなっており、さらに実際に集まった恋愛などに関する様々な疑問、質問について当事者が答えていくという形になっている。

精神障害に起因する自己肯定感の低さや世間からの偏見など様々な原因によって、恋愛することに躊躇してしまう当事者や、所得の低さや再発、再燃による先行きの不安から結婚、出産について一歩踏み出すことができずにいる当事者、家族、支援者に向けて様々な角度から実際に経験してきた当事者たちの声をもとに作業を進めている。

同時に家族、支援者、医療関係者からの声も合わせて掲載し、恋愛することについて良いか悪いか自分なりに考えてもらえる内容にしていくのが狙いである。

2019 年 3 月の段階で恋愛や結婚についての体験談やアンサーをできるだけ多く集め、恋愛は定形的なものではなく十人十色であること、良し悪しがあることを伝え、あくまで一つのパターンであり正解のようなものではなく、参考として役に立てることを目標としている。

今後も様々な体験談、質問に対する回答を集め、恋愛について考える、判断する参考材料を増やしていくことを目標に当事者に限らず様々な人と取り組んでいる。

この本に関わるすべての人は当事者の応援をしたいという共通認識をベースにしており、時に忘れてしまいたい過去も丁寧に綴っており多面的な内容となっている。

当事者に限らず精神保健福祉に携わる人々にも読んでもらうことで今まで以上に当事者の切実な想いや悩みが明確になり相互理解に繋がっていくことも期待できると感じている。

出版時期について現段階では 2019 年中にしているが様々な意見が集まることで新たな展開も考えられるため、内容の充実を最優先とし満を持した状態で出版することを大切にしていこう方向で一丸となって取り組んでいる。

今後の動静にぜひ期待していただきたい。

愛の本編集長
野間慎太郎

結び

YPS が設立して、3年と少しになります。

いままで、いろいろな活動をさせていただきました。

2ヵ月に1回の定例会、本づくり、病院訪問、スポーツ
などなど……………。

その他にも数え切れないほどのイベントがあり、
いろいろなところに行かせて頂いたり、
そして毎週金曜日の夜には、ほぼ何かしら
集まっていたように思います。

3年と少しで

本当に多くの方々と出会うことができました。

本当に感謝です。

そして、世界は広い！ もっともっと多くの人たちとつながり、
ともに学び、成長し、わかちあいたい。

そうすることで、YPSも変化し続けるのだと思います。

人と人が集まり、触れ合い、話し合う中でいろいろなものが生まれてくる。
そして個人、個人も変化していく、それがYPSの醍醐味なのかもしれません。

どっこい、まだまだ伸び盛りのYPS。

ぜひ、これからもYPSの活動に多くの方のご参加お待ちしております。

横浜ピアスタッフ協会会長
住友 健治

横浜ピアスタッフ協会憲章

- ・私たちは「仲間（ピア）」を何よりも大事に思います。
- ・私たちは「私」を何より大事に思います。
- ・仲間であると名のつた人はみんな仲間です。
- ・私たちはリカバリー体験を語る事が出来ます。
- ・私たちは私たちの想像力がどんな壁をものり越えると信じています。
- ・私たちは開かれた関係、開かれた場を創造していきます。
- ・私たちは仲間に対して常に真面目にかつ誠実であり、常におもしろくかつユニークな存在でありたいと願います。
- ・私たちは曖昧さ、自由、矛盾をこよなく愛します。

YPS 横浜ピアスタッフ協会 役員名簿

会長 住友 健治

副会長 瀧沢 賢広

副会長 野間 慎太郎

事務局長 堀合 悠一郎

共同代表 荒木 雅也

藤井 哲也

山田 潤

横浜ピアスタッフ協会 2018 年度事業報告書

2019 年 7 月発行

編集： 横浜ピアスタッフ協会事務局

シャロームの家

横浜市磯子区森 3-7-23

電話 & FAX：045-752-5958

メール：shalom1@jupiter.ocn.ne.jp

YPS 横浜ピアスタッフ協会ホームページ：

<https://shalom153.wixsite.com/yokohama-peers>

「素のままでいいよね」

精神障害者らピアまつり



神奈川県

精神障害のある人も住みやすいまちをつくらんと発信する「第2回神奈川ピアまつり」が8日、横浜市内で開かれた。任意団体、YPS横浜ピアスタッフ協会(住友障治会長)が主催した。昼の部では当事者が入れ替わりでマイクを握り、日々の思いや一芸を披露。精神障害が「もっとオープンに」とマイクを差し出す平野さん(手前右)

あろうとなかろうと、素のままでもいいじゃないかとアピールした。地域活動支援センター「ひふみ」(同市神奈川区)に通う統合失調症の平野玲子さん(63)は約70人の参加者に向かって「自分の病気を隠さなくてもいいと思う人はいいますか?」と問い掛けた。

5〜6人ずつに分かれて座る席に近づいて一人ひとりに聞いたですと、会場は笑いに包まれた。タレントの野口五郎ファンを公言する平野さんは「みんなもっとオープンに話し、面白おかしくやれば

いい」と呼び掛けた。

神奈川県内外から当事者のほか病院や福祉施設の専門職、研究者など約280人が参加した夜の部でも登壇者が自分の生きづらさや関心事を披露。会場となった横浜市開港記念会館は熱気があふれ、

「神奈川の当事者はなんでこんなに元気なのだろう」(さいたま市の精神障害者家族会員)との声も漏れた。主催した同協会は2015年11月に発足。会員は約700人に、そのうち400人で、そのうち当事者は約7割だ。当



夜の部は全員壇上に向かって聲を閉じた

事者が同じような生き方を言っている。当事者であり横浜市内の精神科クリニックの職員でもある住友会

(福田敏克)